

地道な努力が大きな希望へ

1. 出発 ～確実に丙種を～

まず最初に私が危険物取扱者試験というものを知ったのは、高校へ入学する直前でした。先輩から「危険物取扱者の資格は、工業系の仕事に就く人にとっての生命線とも言える」と言われ、自分の中で危険物取扱者試験への意識が高まり始めました。

高校に入学して1ヶ月経つと、私の所属する化学工業科の全生徒が危険物取扱者丙種を受験することになりました。ここで私は、他科の全ての生徒が乙種第4類を受験するのに、なぜ我々だけ丙種を受験するのだろうかという疑問を抱きました。しかし、この丙種を受験するのだからと疑問を抱きました。しかし、この丙種を受験するのだからと疑問を抱きました。しかし、この丙種を受験するのだからと疑問を抱きました。

2. 平明 ～こんなに分かりやすいのか～

危険物取扱者丙種合格から約4ヶ月経って、乙種第4類を受験を決めて、少し早めに勉強に取り組むことにしました。するとここで丙種を受験したことによるメリットを発見しました。乙種第4類と丙種の内容が重複する箇所が多くあったのです。この事から、理解しやすく勉強により精が出て、丙種の知識を基に更なるレベルアップを図ることができました。知識が増えたあとは、先生方が作って



寺本 和真 たらもと かずま
山口県立宇部工業高等学校
化学工業科

くださった乙種第4類の対策プリントを幾度もこなし、傾向を理解し、合格のイメージを高めていきました。丙種るときと同様、友人とゲームのように問題を出し合ったりして、互いに実力を向上させていきました。

試験当日、会場付近のファミリーレストランにて友人と最終確認を行いました。この先の危険物取扱者試験も当日そこに行くのですが、私にとってその店は合格するために必ず行かないといけない「聖地」のようなものでした。大袈裟かもしれませんが、本当にその場所で確認を行うことで自信がつくのです。このような対策もあり、乙種第4類を高い正答率で合格することができました。ここまでの道のりは丙種の経験があったからこそ、順当に來られたのだと思っています。

3. 旅路 ～乙種他類取得へ～

乙種第4類取得後、他類の受験の興味が湧いてきました。ここからは補習がなく、自力で勉強する自分との闘いとなります。私の勉強方法は、テキストの大事だと思つところに印をつけて、復唱をして覚えるというものでした。声に出すと、とても記憶しやすくなります。ごく普通の勉強方法かもしれませんが、私には一番合っていた方法であったと思います。大事な部分を覚えたあとは、第4類と同様の方法で、数多くの問題を解き対策しました。

最初に挑戦したのは第1類と第3類です。初めての重複受験で、全く性質の異なる危険物を覚えるのに苦労しました。免除科目があるため、性質と消火に関する分野の10問のうち6問正解することができれば合格になるとはいえ、貪欲に正答率100%を目指して勉強しました。試験当日は「聖地」でしっかりと確認をして、自信をもち試験に臨んだ結果、見事両類に合格できました。その後、第5類を単独で受験し合格、最後の2つも隣県で受験し合格することで、乙種全類を取得することができました。ここま

では油断することなく、しっかりと知識を積み上げることができました。全類取得できたのは、妥協せず、自分の力を過信せずにしっかりと勉強してきた賜物だと思います。

4. 決断 ～さらなる高みへ～

乙種全類を取得し、いよいよ危険物取扱者甲種に挑戦することにしました。甲種の受験は、ある一定の乙種の類を取得していれば可能です。私は、少しでも甲種を勉強する際の負担を軽減したいと、勉強の効率を考えて乙種全類を取得しました。もちろん、それだけの意味ではなく、未来のことを考えた為でもあります。そして、甲種取得へ向けての闘いのゴングがなりました。

5. 奈落 ～油断と意識変化～

甲種試験へ向けて勉強を開始しましたが、物理化学の分野で足踏み状態になりました。これまでの物理化学に比べて、段違いに難しかったのです。私は化学工業科に所属していましたが、化学系の分野が苦手でした。努力をしても問いに合った公式や原理が思いつかず、苦戦を強いられました。その他の分野も覚えることが多く、多くの時間を費やして勉強しました。物理化学の分野は、理解していない状態で勉強しても身に付かないので、放課後1時間程度、担任の先生に補習をしていただきました。その効果もあり、満点とは言いませんが、コンスタントに点数を出せるようになりました。

しかし、甲種以外を取得しているという油断から、その他の部分の確認を疎かにしてしまいました。試験当日、共に甲種を受験するようになっていた友人と「聖地」で最終確認をしていました。そこで模擬試験としてテスト形式の問題を解いたところ、不合格となってしまいました。受験票と筆記用具、それに焦りと不安を背負って試験会場へと向かいました。試験直後の合格か不合格か分からないという狭間にいたときも、とても不安でした。そしてその不安は的中。危険物に関する法令で1問足りずに不合格となってしまいました。この1問は、油断からなるものだと思います。しっかりと理解していれば、しっかりと復習していれば大丈夫だったのかもしれませんが、この不合格を機に、次は絶対に合格するという強い気持ちが芽生えました。

6. 覚悟 ～理解できるまで～

学生時代に危険物取扱者甲種を受験するチャンスがもう一度ありました。部活動も引退しており、放課後に時間をとることができました。毎日1時間補習をして理解を深めました。分からないところも十分に消化できるまで、先

生方に質問し続けました。帰宅してからも問題を解き続けていました。そうして、絶対に大丈夫という自信、勉強することで身に付けていきました。

2回目の甲種試験。いつもの「聖地」に行き模擬問題を解くと、見事合格しました。受験票と筆記用具、それに今回は自信を背負って受験に向かいました。受験後は前回同様、合格と不合格の狭間にいましたが、前回よりも確かな自信がありました。そして見事合格。危険物取扱者甲種を取得することができました。とても達成感があったことを、今でも覚えています。

7. 終幕 ～これらの経験から得たもの～

危険物取扱者試験を通して、様々な経験をすることができました。努力する心、諦めない心。目標をしっかりと定めることができ、それを成し遂げようと行動すれば、不可能なものなどないということ。もちろん、危険物取扱者で学んだ多くの知識。これらの事が、今の私の身に付いていると思います。

さらに、危険物取扱者試験の受験にあたり、携わってくださった先生方、友人に感謝の気持ちで溢れています。

この先、危険物取扱者を受験される方は数多くいらっしゃると思いますが、絶対に成し遂げられるという強い気持ちを持って、突き進んでください。

